



## 事例研究1の討議のための質問

ケルビン・パーク高校の教師たちは、どのようにオーガナイザーの成功の秘訣を活用しているのでしょうか？

### レッスン1：発想の転換

○ケルビン・パーク高校の活動家はどうやって恐怖や絶望、分断や混乱を未然に防ぎ、「組織化の姿勢」を当然のものとしているのでしょうか？

○職場のオーガナイザーがひとりで行動せず、多くの人々が活動に関わるようにするため、どんなことをしているのでしょうか？

### レッスン2：一対一の対話

○組合はどこで一対一の対話の機会を作り出しているのでしょうか？

### レッスン3：職場マップを作り、リーダーを見出す

○様々な分野の労働者が活動に参加していることが特に役立ったのはどんなときだったのでしょうか？

○リーダーはどうやって民主的に組織化し、たくさんの活動家を育てる手助けをしているのでしょうか？



#### レッスン4：課題選択

○教師たちが広く深く共感し、組織化に取り組んだ課題は何でしょうか？

○その課題の背景にあるどのような価値が問題だったのでしょうか？

○どの課題に労働者以外の味方が共感し、闘いに参加するようになったのでしょうか？

#### レッスン5：キャンペーンを強化する

○教師たちはどのような戦術を採用したのでしょうか？ その戦術は活動温度計のどこに位置づけられますか？

○制度のどの部分に弱点を見出したのでしょうか？ その弱点をどうやって力に変換しましたか？

#### レッスン6：想定外の事態を想定しよう

○強圧的な管理職と対峙するとき、教師はどのようにして報復の危険を軽減したのでしょうか？

#### レッスン7：いつでも組織化を

○組織化を継続するために、教師たちはどのような体制を整えましたか？